

(令和7年7月25日発表)

令和7年度全国学力・学習状況調査「静岡市の結果」の提供

◆ アピールポイント	<ul style="list-style-type: none">・静岡市の児童・生徒（小学校6年生と中学校3年生）が取り組んだ全国学力・学習状況調査の結果を提供します。・この結果をもとに、教育委員会では、静岡市学力向上専門家委員会において児童生徒の学力や学習状況全般について分析を行います。・また、各学校では、学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てるとともに、次年度の教育課程の編成に活かしていきます。
◆ 内容など	<p>別紙公表資料のとおり</p> <p>静岡市全体の結果の概要</p> <ul style="list-style-type: none">・教科（国語、算数・数学・理科）の概要及び、平均正答率、中学校理科のIRTスコア ※別紙資料参照・児童・生徒質問紙調査の概要・学校質問紙調査の概要
◆ 留意点	<ul style="list-style-type: none">・本調査により測定できるのは学力の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことなどを踏まえるとともに、序列化や過度な競争につながらないように十分配慮して適切に取り扱うよう願います。

別紙資料 有

【問合せ】 静岡市教育委員会 学校教育課
教育課程係〔清水庁舎8階〕
担 当 前 田 ・ 長 田
電 話 0 5 4 - 3 5 4 - 2 5 2 1

令和7年度全国学力・学習状況調査 静岡市全体の結果

本資料は、調査結果の概要について示したものです。今後、教育委員会及び学校において詳細な分析を行い、成果と課題を明確にした上で改善に向けた取組を進めていきます。(スケジュールについては6を参照)

1 調査日 令和7年4月17日(木)

2 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況との比較を通して本市の結果を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図り、学校教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童・生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

3 調査を実施した学校・児童生徒数

静岡市	学校数	児童生徒数
小学校6年生	80 [*] / 81校	4,750人
中学校3年生	41 [*] / 43校	4,439人

※小学校・中学校1校は対象学年児童生徒の在籍なし。
中学校1校は対象生徒が欠席。

4 調査内容

(1) 教科に関する調査(小学校:国語、算数、理科 中学校:国語、数学、理科^{*})

※今後コンピュータを用いたテストの規模、内容を段階的に拡充していくため、今年度は中学校理科でコンピュータを用いたオンラインによる調査を行った。

(2) 児童生徒質問紙調査(学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等)

(3) 学校質問紙調査(学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備状況等)

5 結果の概要

(1) 教科に関する調査結果

※市・県の調査結果が国から整数値で示されているのは、「学力面において、細かい桁における微小な差異は実質的な違いを示すものではない」という考えによるものである。

ア 小学校平均正答率(%)

令和7年度	静岡市	静岡県	全国
国語	67	66	66.8
算数	58	57	58.0
理科	55	55	57.1

イ 中学校平均正答率(%)

令和7年度	静岡市	静岡県	全国
国語	56	56	54.3
数学	52	51	48.3

ウ 中学校理科平均IRTスコア

令和7年度	静岡市	静岡県	全国
理科	522	527	503

IRTとは何か

IRTとは

IRTとは、国際的な学力調査（PISA、TIMSSなど）や英語資格・検定試験（TOEIC・TOEFLなど）で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較できます。

IRT(Item Response Theory : 項目反応理論)

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。



全国学力・学習状況調査にIRTを導入するメリット

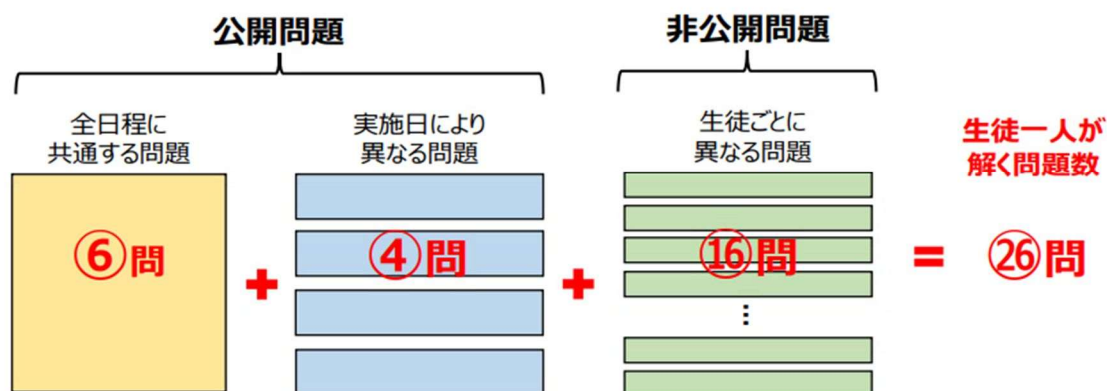


- ① 調査日の複数設定が可能になる。各児童生徒が異なる問題を解く設計にできる。
- ② 今まで以上に多くの問題を使用し、幅広い領域・内容等での調査が可能になる。
- ③ 学力の経年変化を各教育委員会・学校でも把握できる。

令和7年度調査「中学校理科」の問題の構成

問題構成について

- 生徒1人あたり、公開問題10問と非公開問題16問を出題しています。
- 公開問題には全日程に共通する問題と実施日別の問題があります。
- 非公開問題は幅広い内容・難易度等から出題され、生徒ごとに異なる問題を解いています。



文部科学省ホームページより

(2) 児童生徒質問紙調査結果

ア 全国を上回っている上位5項目

小学校					中学校				
質問番号	質問項目	静岡市	静岡県	全国	質問番号	質問項目	静岡市	静岡県	全国
(28)	5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか	65.2	52.5	46.7	(29-4)	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができますか	85.1	82.1	76.6
(29-4)	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができますか	83.0	79.6	76.7	(53)	数学の勉強は好きですか	58.8	56.8	53.8
(29-1)	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができますか	84.8	83.4	81.8	(29-1)	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができますか	86.6	87.2	83.6
(52)	算数の勉強は得意ですか	62.1	60.9	60.3	(68)	理科の授業では、観察や実験をよく行っていますか	88.1	91.3	85.8
(53)	算数の勉強は好きですか	59.2	59.5	57.9	(24)	読書は好きですか	63.8	62.9	61.6

イ 全国を下回っている下位5項目

小学校					中学校				
質問番号	質問項目	静岡市	静岡県	全国	質問番号	質問項目	静岡市	静岡県	全国
(31)	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	59.9	61.9	68.6	(31)	1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	53.1	55.4	63.0
(65)	理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できていますか	55.4	60.0	63.2	(36)	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	67.2	72.5	73.4
(70)	理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか	69.3	74.3	76.0	(62)	理科の授業の内容はよく分かりますか	65.7	71.2	71.4
(10)	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	64.4	72.8	70.6	(42)	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	71.8	78.7	77.3
(66)	自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりしていますか	63.2	67.4	68.9	(60)	理科の勉強は得意ですか	45.6	50.7	50.7

※数値は肯定的な回答をした児童生徒の割合（％）

(3) 学校質問紙調査結果

ア 全国を上回っている上位5項目

小学校				中学校					
質問番号	質問項目	静岡県	静岡県	全国	質問番号	質問項目	静岡県	静岡県	全国
(6.6)	児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようになっていますか（毎日持ち帰らせると答えた学校の割合）	78.8	62.5	40.2	(67-2)	生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。（2）希望する不登校生徒に対する授業配信（週3回以上と答えた学校の割合）	56.1	37.0	34.5
(7.2)	前年度までに、近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか（行ったと答えた学校の割合）	92.6	71.7	65.3	(8.4)	令和6年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行いましたか（学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含む）（行ったと答えた学校の割合）	100	87.9	83.4
(6.2)	調査対象学年の児童同士がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか（週3回以上と答えた学校の割合）	66.3	50.9	46.3	(67-1)	生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。（1）不登校生徒に対する学習活動等の支援（（67-2）の授業配信を含む）（週3回以上と答えた学校の割合）	53.6	35.8	39.3
(67-1)	児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。（1）不登校児童に対する学習活動等の支援（（67-2）の授業配信を含む）（週3回以上と答えた学校の割合）	43.8	25.8	24.2	(7.6)	地域学校協働活動の仕組みを生かして、保護者や地域住民との協働による活動を行いましたか	92.7	82.1	79.5
(6.0)	調査対象学年の児童が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか（週3回以上と答えた学校の割合）	70.1	55.4	52.2	(6.8)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか（ほぼ毎日と答えた学校の割合）	95.1	90.3	82.8

イ 全国を下回っている下位5項目

小学校				中学校					
質問番号	質問項目	静岡県	静岡県	全国	質問番号	質問項目	静岡県	静岡県	全国
(9)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか	75.0	76.9	86.1	(2.9)	調査対象学年の生徒は、授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていると思いますか	34.1	54.4	56.6
(7.0-1)	学校では、調査対象学年の児童のうち、発達障害を含む障害のある児童に対する授業の中で、合理的配慮の提供として、個々の障害の状態や特性及び心身の発達の段階に応じて、本人や保護者の意向を踏まえ、次のことをどの程度行いましたか。（1）人的支援（一部でも行っていると答えた学校の割合）	62.6	65.0	73.7	(6.6)	生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようになっていますか	29.3	57.6	49.5
(3.0)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか	82.6	90.6	91.0	(5.7)	コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられていますか	70.7	80.2	85.4
(4.1)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、国語の授業で、学習状況に即して児童のよい点や進歩の状況を積極的に伝えることを行いましたか	87.6	94.6	95.7	(7)	調査対象学年の生徒は、熱意をもって勉強していると思いますか	75.6	83.7	86.5
(8.2)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校では、児童が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かしましたか	83.8	89.7	90.4	(8.2)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学校では、生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や生徒の学習改善に生かしましたか	73.1	83.7	84.0

※数値は肯定的な回答をした学校の割合（%）

6 結果の分析と学力向上に向けた今後の取組

(1) 教育委員会の取組

時 期	内 容
R7. 8月	<ul style="list-style-type: none"> ・教育センターで結果の分析を行う。 ・学力向上専門家委員に結果の分析を依頼する。 ・学識者、保護者、校長等による学力向上専門家委員会を開催し、今年度の結果について、分析を行う。
R7. 9月～	<ul style="list-style-type: none"> ・研修主任を対象に、静岡市全体の傾向等や授業における改善点について周知する。（研修主任者会等） ・今回の結果を踏まえた授業改善について、専門家委員が学校へ行き、指導助言を行う。（学力向上支援事業） ・児童生徒質問紙調査や学校質問紙調査の分析結果を、各教育施策に生かす。

(2) 学校の取組

時 期	内 容
R7. 7月～	<ul style="list-style-type: none"> ・学級担任から児童生徒に個人票を返却し、良さや課題を伝える。 ・自校の調査結果から見られる成果と課題を分析・考察して、授業改善の方向性についてまとめる。 ・小中一貫教育の各グループにおいて共通する課題について分析・考察する。
R7. 9月	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だより等を利用して、地域・保護者に結果を周知する。 ・改善策を生かした授業に取り組む。
R7. 10月	<ul style="list-style-type: none"> ・自校の結果をふまえた上で、次年度の小中一貫教育課程の編成を進める。
～R8. 1月	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価委員からの意見を今後の取組に生かす。